

県民の声無視できず 大幅統合・再編の方針は変えず

12月3日の県議会での教育長の答弁について、県立高校の統廃合を考える会は、次のような声明を発表しました。

「高校再編計画は次年度に策定したい」との議会答弁について(声明)
2010年12月3日

「計画は来年度に策定したい」

12月3日の県議会で、末松教育長は、県立高校の統合再編について「より一層の周知を図る...ためには、今しばらく時間が必要と考え、今年度中を予定していた計画は来年度に策定したい」と答弁しました。この答弁は、2つの面を持っています。

県民の声を無視できなかった知事と教育長

1つは、高校統廃合が懸念される地域の住民をはじめ、県下全域の高校同窓会・PTA・父母県民の「統廃合への疑問と反対」の声が急速に広がり、県が「今年度中に計画策定」という構えを崩さざるをえなかったことです。「湖北の高校を守る会」を始め、3つの地域と6つの学校で「高校を守る会」がつくられています。ここでは、党派を超えた地方議員、同窓会やPTAのみなさんが運動を担っています。11月3日の「県民の集い」には、立場を越えて、地域の繋がりや教育を大事にする多くの県民が合流しました。「PTAの意見を聴く会」では、疑問や意見がつぎつぎと出されました。「再編のメリットだけでなくデメリットも示して欲しい」「小規模のよさを認めて欲しい」「子どもは減らないのではないか」「役員だけでなくみんなに知らせて話し合うべきだ」「先生たちの意見も聴きたい」「上から決めて押し付ける、このやり方はやめるべきだ」。県教委は、納得できる回答を示すことはできませんでした。



こうした県民の思いは地方議会に映し出されています。全県19市町議会のうち、「統廃合を中止」などの意見書上げた議会は、14議会(74%)に及び、さらに広がる見通しです。

県民の一致した意見は「統廃合先にありきではなく、まず地域住民の意見を聞け」というものです。また、「子

どもは減らない」「小規模校や地域の高校のよさを認めよ」「滋賀県は子どもに使うお金が少なすぎる」など、今回の統廃合計画そのものへの疑問や反対の声も広がっています。教育長も知事も、この県民の思いを無視することはできませんでした。

「大幅な統合・再編」の方針は変えず

もう1つは、「1学年6～8学級」を適正規模として「大幅な統合・再編をすすめる」との基本方針は、いささかも変えていないことです。議会の答弁でも「県の再編に向けた基本的な考え方を一層周知していく」としています。「統合・再編計画」を見直すとか、中止するとか、一言も言っていません。「周知不足」のみを計画延期の理由にし、県民の意見を受け止める姿勢は見られません。

統廃合は県議会の承認事項に 条例の改正を

県民の運動は、さらに県下各地に広がろうとしています。知事、教育長、議会、議員は、この県民の思いを軽く見ることはできません。少なくとも、学校や地域、市町レベルで、県民が納得する開かれた話し合いをすすめるべきです。私たちは、論拠が破綻している「大幅な統合・再編計画」について、計画の中止と見直しを求めつつ、県民討論に参加し合意づくりの運動をすすめます。さらに、「統廃合を前提とする募集停止には県議会の承認を必要」とする条例改正を県に求めます。そして、これを機会に、県立高校が直面している課題、子どもや教育について語り合い、よりよい地域の高校をつくる流れが大きくなるようにとりくみます。



県立高校の統廃合を考える会

ストップ高校統廃合 速報第41号
 2010/12/7 県立高校の統廃合を考える会
 077-522-4965 FAX 077-522-4978

(増し刷りして全教職員に配布し、また掲示板に貼るなどして下さい)